明星中学校だより
知と和と粘り

〒 070-0025 旭川市東５条１丁目

Tel 0166-26-0468　　Fax26-0469

E-mail:　myojyo@myojyo.jhs.asahikawa-hkd.ed.jp

■発行責任者　校長　増茂　薫　　■発行日　平成２４年５月２１日　◇第４号◇

シリーズ　部活動

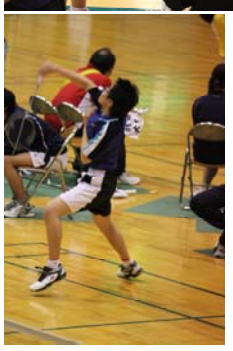
バスケット部主将　工藤　裕基

バスケ部は，『一生懸命』をモットーに，日々，練習に励んでいます。中学に入学して，初めてバスケットボールに触れた部員ばかりですが，一勝を目指し毎日努力をし練習を重ね，チームの団結力を高め，頑張っています。先日も試合がありましたが，今まで練習してきたこと出し切り，最後まであきらめず勝利を目指し全力で戦いました。一生懸命頑張る心，折れない心をみんなで目指し努力しています。応援して下さい。（写真は，４／２２（日）に本校体育館で行われた春季選手権）

【スピーディな動きとパス回しによって第一クォーターは互角で終了。第二クォーター以降，相手の執拗なオールコートプレスにしだいにパスミスが目立つようになる。リバウンドは圧倒的に制するが，相手のミドルシュートやスリーポントが決まり，なかなか１０点差が縮められない展開。しかし，格上の相手にバスケ経験が１～２年程度でこれだけの試合ができるのはすごい，今後が楽しみ。（文責　上中）】

シリーズ　部活動

バドミントン部主将　谷原　瑳香英



４月２８・２９日の会長杯は，中連のシードを決める大会の一つ前の大会でした。自分たちなりに頑張って，自分たちのベストを尽くすというのを目標にして大会に参加しました。この大会に出られない人もいたので，その人たちの分まで頑張って試合をしました。試合途中，苦しくなった時には仲間の応援で，最後までベストを尽くすことができました。これからも，仲間などたくさんの人たちに感謝の気持ちを忘れず，悔いの残らないように頑張っていきます。（写真は，４／２８（土）に総体で行われた会長杯争奪大会）

【総合体育館では，12のコートが用意され，市内のほとんどの中学校が参加して対戦。本校では吹奏楽部の次に大所帯であるバド部（部員数は３５名）。部員をまとめる苦労もひとしおだ。（男子の主将は，木村　優太君〈３－２〉）。ダブルスやシングルスの個人戦になると，勝ち進むたびに試合開始時間が読みづらくなり，試合に臨む気持ちづくり＝コンディションづくりが大変である。おまけに空調は，最低。「真夏は，相当キビシイ」と応援する生徒が語る。それでも，先輩方の試合には２階のコート際に陣取って声援を送る。（文責　上中）】

放課後学習会

『ブリッジ』の開始

それぞれのテキストに黙々と取り組む生徒。時計は，４時を指している。始まってから１５分が経った。学年の先生が一人，生徒の様子をニコニコして見ている。生徒の中には，時々，顔を上げて中空を見つめた後，また視線はシャープペンシルの先に。

こうした活動が，希望者に年４０回用意されている。もちろん，部活動も並行して行われる。「ブリッジ」の参加者のため，部活動の開始メニューは配慮されている。多くの中学校では，放課後は学級会活動，生徒会活動，部活動が行われているが，本校ではこれに「ブリッジ」が加わる。だから，生徒も先生も忙しい。それを創意と工夫でこなしている。参加者は，１年37名，２年42名，３年35名。頑張る生徒を，我々は応援します。

『部活動顧問の先生方よろしくお願いします』

四月の部活動育成会総会にて，「PTA総会とは，別日に開催する」という主旨の規約改正が承認されてから，初めて実施された部活動育成会臨時総会。夜六時三十分からの遅い時間でしたが，八十五名の保護者の皆様にご参集いただきました。お忙しいところ，ありがとうございました。

部活動育成会会長の小山様より，十一の部活動代表顧問一人一人に，顧問の委嘱状が手渡されました。部活動は，「教育課程外の活動」「勤務時間外の活動」ではありますが，子どもたちにとって大切な取組なので，これからもよろしくご指導願いますという意を，保護者の代表として伝えていただきました。

本校では，八割以上の生徒が部活動に参加して，活動しています。この数字は，市内や全道と比較すると，大変高いものです。しかし，その割には顧問と保護者とが互いに顔や名前を知らないのではないか，という指摘がありました。

保護者にしてみれば，大会等に行けば何となく顧問であろうことはわかるが，「実際には話をしたことがない」「（感謝の気持ちを伝えたくても）自己紹介から始めなければならないことを考えると，つい，おっくう」との実態があるようです。それは顧問の立場からも同様で，「部員の保護者だろうとは思うが誰の保護者なのかわからない」ということです。部毎に「保護者会」とか「後援会」があれば，状況は違うとは思いますが，すべての部にそれが設置されているわけではありません。よって，この部活動育成会臨時総会において，保護者と顧問とが顔を合わせる機会を設定させていただきました。「後援会」等の会がある部は，わざわざこの機会にあわせて「後援会総会」等を開催していただいたようです。ご配慮，ありがとうございました。

部活動と勉学を同時に両立させることは，子どもにとって，大人がその大切さを語る以上に大変なことです。もちろん，それが成就できましたら得るものも絶大です。そのためには，大人として，入部させっぱなしではいけません。指導者として保護者として，手と手を取り合って，子どもたちを応援していけるような関係づくりに今後もご協力願います。